

唐突ですが、「子ども食堂」をご存知ですか？

地域のボランティアが子供たちに対し、無料又は安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供するものです。「子ども食堂」の数は全国で約 2,300 カ所を上回るそうです。(法政大学湯浅誠教授 2018.4 調査)

先日、当センターの研修会に、「子ども食堂」を運営している、特定非営利活動法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長の栗林知絵子（くりばやし ちえこ）氏を講師としてお招きし、「子どもの居場所でひろったつぶやきからおせっかいの連鎖へ」と題してご講話いただきました。その中で紹介された、ある少女の話が心に残ったので紹介します。

この少女は、母子家庭であることを友だちから、からかわれたことがきっかけで不登校になり、親子で自宅に閉じこもりがちになります。しかし、栗林氏から子ども食堂に来るよう誘われ、みんなで温かい食事を共に食べたり、ボランティアさんにお手伝いをほめてもらったりすることが増えるようになると、人との関わりによって、徐々に明るさを取り戻すようになったそうです。やはり地域全体で見守り、学びや暮らしを支える必要性があるということを実感するお話でした。



WAKUWAKU ネットワークにはマスコットキャラクターがいるのですが、それをデザインしたのがその少女で、名前は「おせっかえる」。ピンク色のカエルで口元にはご飯粒をつけています。このご飯粒は子ども食堂で食べたご飯をあらわしているそうです。また、カエルをモチーフにしたのは、子ども食堂で支援（おせっかい）を受けた大人や子どもたち（おたまじゃくし）が、やがて、「おせっかえる」（カエル）になって活動を支えるという願いがこめられているそうです。

こうした「子ども食堂」の取組は、県内でも広がりつつあります。同じく当センターの研修会の中で、宮古市社会福祉協議会の有原 領一氏から「しおかぜダイニングの取組」と題して実践発表いただいたのがその一つです。

その取組は、学校が休みの日に公民館を会場として学区の子どもや地域の方が無料で参加できる「わくわくハッピーこどもダイニング」を開催しているというものです。地域の団体・企業・商店・地域ボランティアが連携して一緒に食事を作ったり、食べたり、勉強したりしながら、地域のいろいろな大人と出会い、自分の将来を拓げる場を目指して活動しているそうです。

地域のつながりの希薄化が課題となっている昨今ですが、「子どもの貧困を何とかしたい」「地域の子どもを地域で支えよう」という思いが集まって、「子ども食堂」から新たな地域のつながりが各地で生み出されようとしています。

県内の子ども食堂については、「子どもの居場所ネットワークいわて」のHP (<http://kodomo-net-iwate.jp/index.html>) から、開催期日、利用料、メニュー等も見ることができます。【＼】

〇メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止はこちらからどうぞ(^\_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

〇メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まな

びネットいわて」 (<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」

> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^\_^)/

\*\*\*\*\*

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索